

NANTO ルーム推薦図書 Talk Café 第7回 2023.7.3

第7回は経営学部の南川 和充先生、余合 淳先生のお二人をお迎えして開催しました。南川先生の推薦図書は『紙つなげ！彼らが本の紙を造っている―再生・日本製紙石巻工場』、余合先生の推薦図書は『私たちはどうつながっているのか―ネットワークの科学を応用する―』でした。先生方が選書されたそれぞれの資料について、前半は南川先生、後半は余合先生の順にお話いただきました。

南川先生は、『紙つなげ！彼らが本の紙を造っている―再生・日本製紙石巻工場』の推薦理由として、新入生を含むさまざまな所属の学生が読むことを想定し、難解な専門書ではなく、よみやすさを重視した一般的な資料を選定してくださったとのことでした。また、震災という大きな悲劇から一企業（製紙工場）がどのように立ち直っていくかという本書のストーリーは、とくに先生のご所属の経営学部の取り扱うテーマにも関係するところが大きく、ぜひ経営学部の学生に手に取ってほしいとのことでした。舞台となるのが「製紙工場」という点においても、紙・本と密接に関わることから、本を取り扱う図書館での展示に適しているとのことお考えで、さまざまな観点からその推薦理由を述べていただきました。



余合先生は、『私たちはどうつながっているのか―ネットワークの科学を応用する―』について、本文を引用したスライドを用いながら、本書の内容を踏まえその魅力をお聞かせくださいました。文中に登場する、「弱い紐帯」「スモールワールド研究」など、聞きなれない専門用語について身近な事例を挙げつつ、人や社会とのつながり方について示唆に富んだお話をいただきました。同質性の高いいつものコミュニティは居心地がよいものの、“普段と異なる場所で属性の異なる人間と出会っていくことが、自らの人生やキャリアにさまざま

まなブレイクスルーを生み出す可能性を秘めている”と締めくくられ、トークカフェのような一期一会の場所においても、新たな出会いや発見の場になりうるとのお言葉をいただきました。お二人のトーク終了後も積極的な質疑応答が交わされ、大変充実したひとときとなりました。



■今回取り上げられた資料

紙つなげ!彼らが本の紙を造っている : 再生・日本製紙石巻工場 佐々涼子著.-- 早川書房, 2014.

585K||230

私たちはどうつながっているのか : ネットワークの科学を応用する 増田直紀著.-- 中央公論新社, 2007.

081K||2358||v.1894